

第19課 評價的角度：わりに（は）・にしては・だけ（のことは）ある・として・にとって・にしたら／にすれば／にしてみれば

第19課對應《新完全マスター N2》第1部「II 主観を含めて説明する（帶主観説明）」的第19課，主題是「從某個角度去看、去評價一件事」。本課要分清楚六個句型：拿基準去衡量、結果出乎比例的～わりに（は）、與某前提的預期不符的～にしては、評價與身分相稱的～だけ（のことは）ある，以及表示立場、角度的～として、～にとって和～にしたら／～にすれば／～にしてみれば。前三個是「衡量後的評價」，後三個是「站在哪個立場去看」。

■ 今課目標

- 用～わりに（は）表達「比起...（的程度），算是出乎比例地...」。
- 用～にしては 表達「以...來說，倒是...（與該前提的預期不符）」。
- 用～だけ（のことは）ある 表達「不愧是...、難怪...（評價與身分相稱）」。
- 用～として 表達「作為...（身分、立場、資格）」。
- 用～にとって 表達「對...來說（站在某人角度去衡量）」。
- 用～にしたら／～にすれば／～にしてみれば 表達「站在...的立場來看（多含體諒、設身處地）」。

一、～わりに（は）：比起程度，出乎比例

■ 跟該基準應有的程度不成正比

～わりに（は）表示「拿前面這件事當基準，本來會推想到某個程度，結果卻和那個程度不成正比」。前面接的，是本身就帶有「程度高低」幅度的詞（年齡、價錢、擔心、年輕等）。後句是「跟預想的程度不一樣」的評價，可正可負。和～にしては 很接近，差別在～わりに（は）比的是「程度高低」，前接的事可以是一個範圍。

■ 形式規則

名詞＋の／動詞・イ形容詞普通形（ナ形容詞＋な／＋である）＋わりに（は）。前接帶程度幅度的詞（年齡、價錢、年輕等）；後接「與預想程度不符」的評價。

■ 例句

1. このレストランは、値段のわりに量が多くて満足した。
→ 這家餐廳比起價錢，份量算是相當多，我很滿意。(名詞+の)
2. 父は、年齢のわりには体力があって、毎朝走っている。
→ 父親以年紀來說體力算是不錯，每天早上都去跑步。(名詞+の)
3. このパソコンは、安いわりに動作がとても速い。
→ 這台電腦比起便宜的價格，運作得相當快。(イ形容詞)
4. あれだけ練習したわりには、結果はあまり伸びなかった。
→ 比起練習了那麼多，成績卻沒怎麼進步。(動詞普通形)

二、～にしては：以...來說，倒是...

■ 跟這個前提應有的樣子不符

～にしては 表示「拿前面這個事實或標準當前提，本來會推想到某個結果，實際卻出乎意料」。和～わりに(は)不同，這裡前接的多半是一件「特定、固定」的事(二月、一千円、小孩做的等)，沒有程度的幅度。後句是「跟這個前提讓人預想的不一樣」的評價。

■ 形式規則

名詞／普通形(ナ形容詞+である・名詞+である) +にしては。前接特定、固定的事(多無程度幅度)；後接「與該前提預想不符」的評價。

■ 例句

1. 今日は二月にしては、驚くほど暖かい。
→ 今天以二月來說，暖得令人吃驚。(名詞)
2. このかばんは三千円にしては、丈夫でデザインもいい。
→ 這個包包以三千日圓來說，倒是既耐用、設計又好。(名詞)
3. この料理、子供が作ったにしてはよくできていますね。
→ 這道菜以小孩做的來說，做得相當不錯呢。(動詞普通形)
4. 彼は日本に来たばかりなにしては、敬語をととても上手に使う。
→ 他以剛來日本來說，敬語用得相當好。(ナ形容詞+な+の)

三、～だけ（のことは）ある：不愧是...、難怪...

■ 評價跟身分、條件相稱

～だけ（のことは）ある 表示「正如從前面那個條件、身分所期待的那樣（果然名副其實）」，帶「不愧...、難怪...」的讚嘆。前面是「值得這樣評價」的理由（住了很久、是冠軍、價錢貴 等），後句是「評價很高」的內容。常和 さすが（不愧）搭配。後句不接未來、推量的句子；名詞要用「名詞+だけのことはある」，不接「名詞+だ」的形。

■ 形式規則

名詞／普通形（ナ形容詞+な）+だけ（のことは）ある。*名詞不接「だ」的形。前接值得評價的理由；後接「評價很高」的內容，不接未來、推量。

■ 例句

1. 彼の発音は完璧だ。十年も海外で暮らしていただけのことはある。
→ 他的發音很完美，不愧是在國外住了十年。（動詞普通形）
2. さすが一流の職人が作っただけあって、この家具は細部まで美しい。
→ 不愧是一流工匠做的，這件家具連細節都很美。（動詞普通形+だけあって）
3. この旅館はサービスが行き届いている。値段が高いだけのことはある。
→ 這家旅館服務無微不至，難怪價錢這麼貴。（イ形容詞）
4. 彼女は字がとてもきれいだ。書道の先生をしているだけある。
→ 她的字非常漂亮，不愧是當書法老師的。（動詞普通形+だけある）

四、～として：作為...（身分、立場）

■ 以某個身分、資格去做

～として 表示「以...的立場、資格、身分、名義，去做某事或處於某狀態」。前面接表示身分、資格、名目的名詞，後句接行為、狀態的動詞，或「知られている・有名」這類評價、「当然だ・恥ずかしい」這類判斷的詞。

■ 形式規則

名詞+として。前接表示身分、資格、立場、名目的名詞；後接行為、狀態，或評價、判斷的詞。

■ 例句

1. 彼は現役を引退したあと、監督としてチームに戻ってきた。
→ 他退役之後，以總教練的身分回到了球隊。
2. この町は古い温泉地として全国に知られている。
→ 這個小鎮作為古老的溫泉鄉而聞名全國。(後接評價)
3. 約束を守るのは、社会人として当然のことだ。
→ 遵守約定，作為一個社會人是理所當然的事。(後接判斷)
4. これは趣味ではなく、仕事としてやっています。
→ 這不是興趣，我是當作工作在做的。

五、～にとって：對...來說（衡量）

■ 站在某人角度去衡量

～にとって 表示「站在...的角度、立場去看，某件事是怎樣的」。前面多接表示「人」（或團體、組織）的名詞，後句接「對那個人而言是怎樣評價」的內容，多是形容詞句（大切だ、必要だ、ありがたい等）。後句不接表示動作的句子。

■ 形式規則

名詞（多為人、團體）＋にとって。後接「對該對象而言如何評價」的內容（多為形容詞句）；不接表示動作的句子。

■ 例句

1. 今の私にとって、一番大切なのは家族との時間だ。
→ 對現在的我來說，最重要的是和家人相處的時間。
2. スマートフォンは、現代人にとってなくてはならない道具になった。
→ 智慧型手機對現代人來說，已成了不可或缺的工具。
3. この古い写真は、ほかの人にとってはただの紙でも、私には宝物だ。
→ 這張舊照片對別人來說也許只是一張紙，對我卻是寶物。
4. 留学生にとって、生活費の負担はとても大きい。
→ 對留學生來說，生活費的負擔非常沉重。

六、～にしたら・～にすれば・～にしてみれば：站在...的立場

■ 設身處地替對方著想

～にしたら／～にすれば／～にしてみれば 表示「站到...的立場上來看，事情也能這麼說」。前面通常接「說話人以外的人」，後句站在那個人的立場，推測對方的心情、想法，常帶體諒、設身處地的語感（「在對方看來，大概...吧」）。三個說法意思相近，～にしてみれば 的「設身處地」語感最強。

■ 形式規則

名詞（多為說話人以外的人）＋にしたら／にすれば／にしてみれば。後接站在該人立場、推測其心情、想法的內容（多含體諒）。

■ 例句

- あれこれ言われて嫌だろうが、お母さんにしたら君のことが心配なんだよ。
→ 被嘮叨來嘮叨去你大概很煩，但站在媽媽的立場，她是擔心你啊。
- タバコを吸う人にすれば、増税の話はあまり聞きたくないだろう。
→ 站在抽菸的人的立場來看，大概不太想聽到加稅的消息吧。
- 高速道路ができて便利になったが、沿線の住民にしてみれば、騒音は深刻な問題だ。
→ 高速公路通車後變得方便了，但設身處地替沿線居民想，噪音是個嚴重的問題。
- こちらは親切のつもりでも、相手にしてみれば余計なお世話かもしれない。
→ 我們自以為是好意，但在對方看來，說不定是多管閒事。

七、常見錯誤與總整理

～わりに（は） vs ～にしては

句型	核心意思	前接的事
～わりに（は）	比起該基準的「程度」，出乎比例	帶程度幅度的詞（年齡、價錢、年輕...）
～にしては	以這個前提來說，倒是出乎意料	特定、固定的事（二月、三千元、小孩做的...）

三個「立場、角度」的分別

句型	核心意思	後句典型
～として	以某身分、資格去做	行為、狀態、評價、判斷
～にとって	站在某人角度衡量某事如何	形容詞句（大切だ、必要だ...），不接動作
～にしたら／にすれば／にしてみれば	站在某人立場、推測其心情（體諒）	推測對方心情、想法（...だろう）

■ 常見錯誤

- **×** 今日は二月のわりには暖かい。
○ **今日は二月にしては暖かい。**
「二月」是特定、固定、沒有程度幅度的事，要用 にしては；わりに（は）比的是有幅度的「程度」（年齡、價錢等）。
- **×** 彼の発音は完璧だ。十年も海外で暮らしていただけのことはあるだろう。
○ **彼の発音は完璧だ。十年も海外で暮らしていただけのことはある。**
だけ（のことは）ある 是對「已成立的事實」下「不愧是...」的評價，後句不接推量（～だろう）或未來。
- **×** 彼は社長だけのことはある立派な人だ。
○ **彼は社長であるだけのことはある立派な人だ。**
だけ（のことは）ある 接名詞時不用「名詞+だ」，要用「名詞+である」（或改寫成動詞句，如「社長をしているだけある」）。
- **×** 現代人にとってパソコンを毎日使っている。
○ **現代人にとってパソコンはなくてはならない道具だ。**
にとって 後句是「對該對象而言如何評價」（多為形容詞句），不接表示動作的句子。
- **×** 私にしてみれば、家族が一番大切だ。
○ **私にとって、家族が一番大切だ。／親にしてみれば、子供が一番大切だ。**
にしたら／にすれば／にしてみれば 通常接「說話人以外的人」，用來體諒、推測對方心情；講「對我自己而言」用 にとって。

自己輸出：用 わりに（は）・にしては・だけ（のことは）ある・として・にとって・にしたら／にすれば／にしてみれば 各
寫一句。可寫一件「比預想出乎比例」的事、一句「不愧是...」的讚嘆，或一句「設身處地替對方想」的話。
